

と

「と行」の天草方言 「天草方言集 鶴田 功著」

…と …なのだ 「すっと・とつとつと・よかと」
 …と …の者 …の物 「おりと・おりげんと」
 …と? …なのか …ですか …なのだ 「どけ行くと」
 …ど? …どー …だろう …でしょう ②…ですか 「来んど」
 どい どーい 何故 **why** どうして 不都合 不具合 拙い
 どいあって 何故ならば どうしたって どうであれ
 どいが どれが ②誰が 《牛深・有明》
 どいかい …きゃ …け …な …ね …や 何故ですか
 といき 〈一息〉 一服 一休み [ひ] の省略
どいじゃろもん 不都合でしょう 悪いでしょう 拙いよ
 どいしょ 何故でしょうか
 どいつ 《京》 どやつ 何奴 [誰、どの人] の卑語
 どいてみろ 避けなさい 場所を空けろ 席を譲れ
 どいでん どうしてでん どうしてん どうしても 何故でも
 どいとけ どけ 避けている 離れている
 どいなくとー どいなくとねー 何故泣くの
 どいにゃー どいねー どいまー どいばい 仕方ないね
 どいばな 具合悪いよ 不都合ですよ まずかろう
 どいふう どういうふう どんな調子 どんな様子 具合
 どいまー 何故ならば どしてかという
 といめん 対面 **interview** 反対側 向こう側
 どいもこいも どれもこれも 《牛深》
 どいもんか どういもんか どういうもんか 何と云うことか
 どいわりゃ どうして(あなた) だって(お前) 《志柿》
 …とう? …の …のか …のだ …なのか 「来っとう」
 …とう? …の物か 「あんたがとう」 あなたの物ですか
 どう どれ ほれ さあ では さて 「どう、かせてみろ」
 …どう? …だろう …であろう 「良かつどう」
 どうあつか …ありろ …ある …あるか …あろに 良いではないか
 どうあつてん どわつてん どのような理由があつても
 どういうふう どんな調子 どんな様子 具合
 とういも【唐諸】 甘諸
 とうす とうす 《京》【唐臼】 手動式粳摺り機
 とうが とうぐわ【唐鍬】 幅の狭い鍬 鍬の一種
 どうか どうだろう 何と 「どうかよかおなごよ」
 …どうか …だろうか 「良かつどうか」
 どうかい どうかな どうきゃー どうけー 如何ですか

とうがき【唐柿】 ^{イチジク} 無花果 《五和・京》
とうから とうに【疾うに】《京》 とつくに 既に 以前から
と一き とぎ【伽】 通夜 ②慰め役 **nursing** ③寝所の相手
とうきどき ときた一ま 時々
トウキビ【唐黍】 南蛮黍 トウモロコシ イネ科
どうぎょうし 古語【同行衆】 信仰仲間 門徒
どうぐしまう 道具が壊れてしまう 道具を破損する
どうぐよろず 〈道具萬〉 道具類
どうこう【如何斯う】 どうのこうの 何のかの とやかく「どうこう言うな」
とうざ 古語【当座】 ^{たうざ} 当分の間 差当たり ②その場
どうさくどん【造作】 藁屋根葺き職人 [ぞ] の転音
とうさん とうちゃん お父さん **father**
とうし とうしー【通し】 続け様に 引き続き 常時
とうじ 釜炊きご飯で底部の焦げた部分
どうし どし 古語【同士 同志】 友達 **friend** 連れ 仲間 **companion**
どうし どし どしな どしね どうして なぜですか
どうしたっちゃ どうしてん どうしてでん どうしても
どうしたもねろ どうしたもんか どうしたものやら
どうしなしたか どがしなしたか どうなさいましたか
とうしゃー とうせー 遠さに 遠いので
どうじゃい どうじゃいろ どうじゃろかい どうだろうか
どうじゃいわからん どうだか判らない
どうしやっしゅうかい どうしゅうかい どうしましょう
ドウシュウ 〈童鯛〉 小鯛
どうしゅうか どうしゅうかい どうしましょう
どうしゅうきゃー どうしゅうに 仕方ないよ
どうしゅうろ どうしよう どうしましょう **oh! my god**
どうしようんござっせん どうしようもありません
トウジンマメ【唐人豆 異人豆 南京豆】 ^{ラッカセイ} 落花生 **peanuts**
とうす 古語【東司】《梵語》 禅寺の便所
どうするかなー どうすんな どうしましょう
どうせ 所詮 **after all** 結局は どっちみち《京》
とうだ 〈跳んだ〉 **jumping** 跳ねた 跳ね上がった
とうだ 〈飛んだ〉 **flying** 「飛うではってた」 飛び去った
トウタビ トウタブ【唐タブ】 ^{いちじく} 無花果
とうちーなす 一つにする 一緒にする 混合する
どうちゅうこたなか 心配には及ばない 特別ではない
どうづき【土搗き】 地搗き よいとまけ 基礎を搗き固める
とうつこつ 同一のこと 同じこと [ひ] の省略
とうつ た一つ 一つ二つ [ひ・ふ] の省略

とおつだ とおつどま 一つ位は 少し位いは
とおつどん 一つ位 少し位い 僅かそれしき
とおつなつと 一つなりとも 少しでも
どうてろこうてろ どうこう どうのこうの 言い訳
どうでん どがんでん どぎゃんでん どうにも 何としても
どうでんこうでん どうにもこうにも 是が非でも
とうと 古語【とうと】 遂に **at last** 結局 最終的に
どうと どうとう〈白蟻〉 シロアリ科の昆虫
どうどう 作業用牛馬に「止まれ」の合図《京》
とーとーとー 鶏を呼び集める声《京》
とうなす【唐茄子】 南瓜 **pumpkin** 《京》
どうなつとなつど どうなつときゃーなるもん どうにか成るだろう
どうなりこうなり 何とか 曲がりなりにも《京》
どうなるもねーろ どうなることやら
どうなろうきゃー どうなろうに どうなるものでもない
とうに【疾うに】《京》 とっくに 既に 以前から
とうにん 古語【頭人】 祭礼行事の世話役 幹事《京》
どうのこうの どうとかこうとか 色々と
とうノたつ【臺】 花の軸が伸びる ②盛りを過ぎる
とうノむかし【疾うの昔】 とっくに ずっと前に
とうはた とうばた【唐旗】 凧
どうはっせん〈唐人豆 異人豆 南京豆〉 落花生 **peanuts**
とうまいぶくろ【唐米袋】 玄米を入れる麻袋
とうみ【唐箕】 とみ 農具 穀物選別機
どうみたっちゃ どうみてん どう見ても 吟味
どうも 何だか 何かしら どうにも 誠に 全く
どうもー どうも【老耄】 老耄性痴呆症
どうもこうも どうもこも どんこん 古語【どもかうも】 如何にも
どうにもこうにも
どうもせん 何もしない 加害を与えない
とうもと【当元】 行事の当番役 世話役 輪番幹事
とうや【通屋】 軒下の狭い通路 背戸家《崎津》
どうやら 近世語【どうやら】 どうにか なんとなく《京》
どうゆうこつか どゆこつか どうゆうことか
とうら【俵】 藁や葦で編んだ袋 糶俵 《京》
とうらい【到来】 とうりゃー 死期到来 ②寺に訃報を届ける
どうらく【道楽】《梵語》 **pastime** 正業を怠り遊びに耽る 放蕩する
どうらくもん【道楽者】 放蕩者 身持ちが悪い人《京》
とーりごつ とーりごと【独語】 一人で呟くことば
とーり たーり【一人 二人】 [ひ・ふ]の省略

と一りまえ【一人前】〔ひ〕の省略
と一りもん【独り者】 独身者〔ひ〕の省略
どうろこうろ どうろころ どころろ どうにかこうにか やっと
どうわいらん どわいらん 不用意に いい加減に
どうわっか どうわる いいじゃないか平気だよ
とお とんを【十】 **ten** 数
とおうい とおうて とおうして とおさもとおさ 遠くて
とおかろきゃー とおかろけー 遠いものか 遠くない
とおかろで とおかろに 遠いだろうに
とおさせん とおらせん 通さない 進入させない 通行止め
とおさね とおさん とおに 遠くへ
とおさんじめ〈通さぬゞ〉 魔除けの注連縄
とおし【通し】^{とおし} 引き続き^{ふる} 休みなく 続けて 常に^{こぎねとおし} 何時も
とおし【篩】 篩い **sieve** 粉篩い《京》 「小実篩」
とおして とおしで 通して 引続いて 継続して《日ポ》
とおしもん 街頭見せ物の人形（伝統民芸）
とおせんぼ 通行止め 通交妨害 進入禁止
とおつこっ とおつこつ とおつこと 一つ事 同じ事
とおっずつ 一つ一つ 一つずつ〔ひ〕の省略
とおつ た一つ 一つ 二つ〔ひ・ふ〕の省略
とおつつくら〈一ツ懐〉^{どうきん} 同衾 共寝 添い寝
とおっで と一りで【一人で】〔ひ〕の省略
とおで〈跳んで〉 跳ねる 跳ね上がる
とおでとんまくる 喜んで跳び跳ねる ひたすら跳び廻る
とおではってく 飛ぶ **fly** 飛び去る 飛んで逃げる
とおのく【遠退く】 遠ざかる
とおノむかし〈遠の昔〉 とっくの昔 ずっと以前から《京》
とおみばんしょ【遠見番所】 海上の見張り番が駐在する処
とおらいた とおらした とおんなった 通った 当選した
とおらせん 通さない 進入させない
とおりがけ 通りすがり 通り掛かり
とおりみち〈通り道〉 通路 **way** 何時も通る道
とおるっとな 倒れるよ 転ぶよ
とおるる とおれる【倒れる】 転倒する 転ぶ〔た〕の転音
とおれた【倒れた】 転倒した 転んだ〔た〕の転音
とおんなすな とおんなな とおんなね 通らないで下さい
…とか …ときゃー …とけー …なのですか 「すっとか」
とが 古語【科】**charge** 過失 過ち **fault** 罪 **crime**
…とが …のが …なのが 「こまかとがよか」
…どか …どかい …だろうか 「良かっどか」

…どが …でしょうが …だろうが 「せんどが」
どかーいらん 何処かしこに どこにでも
どがーいらん どぎゃいらん どげいらん 不用意に いい加減に 不注意に 構わず
…とかい …とかいた …なのか 「来っとかい」
どがい 如何な どんな どのように《牛深》
どがい あつとー どうあるというのか 構わないよ《牛深》
とかき【斗搔き】 升搔き 升で穀類を計量する時の均し棒
とかぎり【^{トカゲ}蜥蜴】 lizard 爬虫類 《日ポ》
どがささでん どぎゃささでん 何時までも
とかさね〈一重ね〉 重ねた物の一組 [ひ] の省略
どがしこ どぎゃしこ どげしこ どしこ 如何程 どれだけ
どがしこでん どぎゃしこでん どしこでん どれ丈でも いくらでも
どかす 古語【^ト退かす】 退ける 移動する《京》
とかたげ〈一担ぎ〉 一度に担ぐ荷物 [ひ] の省略
…とかな …なのか 「来っとかな」
…とかなー …とかなん …なのですか 「良かとかなん」
…どがなー …どがにゃ …でしょう 「せんどがにゃ」
…どかにゃ …どかねー …だろうか 「見んどかにゃ」
どがはざでん どぎゃはざでん 何時までも
とかまえた とかめた 捕らえた
とかまる【^{つか}掴まる】 hold しっかり握る ②捕まる
とかまえる とかまる とかむる 捕まえる catch
どがむる 古語【^{とか}咎む】 咎める 責める 非難する ②心が痛む
とかりゃー とかれー 一荷分の荷物 [ひ] の省略
とがる とんがる【^{とか}尖る】 get sharp 先端が鋭い《日ポ》
…とかん？ …なのか 「行くとかん」
どかん 退かない 場所を動かない 移動しない
どがん どぎゃん どげん【如何】 how どん様な どんな
どがんあるか どぎゃんあるか どげんあるか いいじゃないか
どかんか どげ 退きなさい 避きなさい 道を譲りなさい
どがんかい どぎゃんかい どげんかい どうだい
どがんかせんば どぎゃんか… どうにかしなければ
どがんかな どぎゃんかな どげんかなー 如何ですか
どがんかなつど どぎゃんか… 何とかかなるだろう
どがんこつでん どぎゃん… どんなことでも
どがんさすかな どがんさすと どがんさすとな どうなさいますか
どがんした どがんしたてな どがんしたと？ どうしたのか
どがんしたっちゃ どぎゃん… どげん… どうしても
どがんしてでん どがんしてん どぎゃん… どげん… どうしても 何が何でも
どがんしなすか どがんしなすと どうなさいますか

どがんじゃいろ どぎゃんじゃろかい どうだろうか
どがんじゃった どぎゃんだった どげん… どうでしたか
どがんしゅうかい どぎゃん… どげん… どうしようか
どがんしゅうろ どぎゃん… どげん… どうしたものか
どがんしゅうに どぎゃん… どげん… どうしようもないよ
どがんしよもなか どがんしよんなか どうしようもない
どがんする? どがんするか どがんすつと どうしますか
とかんち一て とかんついて 掴まって
とかんつく【掴まる】^{つか}hold すがり付く
どがんでござすどかい どげんで… どうでしょうか
どがんでん どぎゃんでん どげんでん どうにでも
どがんどがん どぎゃんどぎゃん 如何様に どんなに
どがんとでん どぎゃんとでん どげんとでん どんな物でも
どがんな どぎゃんな どげんな どうですか 如何ですか
どがんなか どぎゃんなか どげんなか どうもない 平気
どがんなった どぎゃんなった どげんなった どうになりましたか
どがんなつと どぎゃんなつと どげんなつと どうにか
どがんなつとつと どぎゃんなつとつと どうなっているのか
どがんなつとなつど どぎゃんなつとなつど どうにかなるよ
どがんなるもねろ どぎゃんなるもねろ どうなるものやら
どがんなろうに どぎゃんなろうに どうなるものでもない
どがんふう どぎゃんふう どげん… 調子はどうですか
どがんもこがんも どぎゃんもこぎゃんも どげんもこげんも どうにもこうにも
どがんもせんちゃ どぎゃんも… どげんも… 何もしなくても
どがんもなか どぎゃんもなか どげんもなか どうもない
どがんもなりやっせん どぎゃんも… どうにもなりません
どがんや どぎゃんや どげんや どうですか 如何ですか
とぎ【伽】 通夜 死を悼む ②慰め役 nursing ③寝所の相手 《京》
とき一にや ときにや ときにや一にや 偶には 時偶 時折
どきつか どぎつか 味や色があくどい 非常に強烈
ときた一ま ときたま【時偶】 偶に 時折 sometimes
ときならんとき 不定時に 不定期に
ときに ときにが 時として 処で それはそうと《日ボ》
…ときにや …時には 珠には 「来んときにや」
とぎみみやー とぎみめー【伽見舞い】 通夜 死者を悼む
どぎもぬく【度肝抜く】 ひどく驚く
…ときやー? …とけー? …となー? …なのか
どぎやーいらん どげーいらん 不用意に いい加減に
どぎやしこ どげしこ どしこ 如何程 どれだけ
どぎゃん どげん【如何】how どん様な どんな

どぎゃんもなか どげんもなか どうもない
とぎらきやーて とぎらけーて 尖らせて
…とぎりや …ならば 「来っとぎりや」
とぎる とんぎる【研ぐ 磨ぐ】 先端を細く削って尖らせる《日ポ》
ときれ〈一切れ〉 一片の〔ひ〕の省略
どきんがん ひどい近視
…とく …どく …しておく 「言うどく」「読んどく」
どく 古語【退く】 退ける 取り除く 避ける《京》
どくいーなる 毒になる 害する
とくしん 古語【得心】 **full consent** 納得 **consent** 《京》
とくしんノいかん 納得できない 合点がいかない
どくすっぽ 碌すっぽ 碌に 確かに 満足に〔ろ〕の転音
どくだんそう ドクダミソウ ドクダミ科の多年草
とくち〈一口〉 一度に口に入れる ②一言 ③口数
どくなこたなか 碌でない まともでない
とくぼ〈一焼べ〉 一回焼べる分量の薪〔ひ〕の省略
とくぼ〈一窪〉 蒸し物の蒸籠一杯の分量〔ひ〕の省略
ドグラ ドンクロ ドンコ科ドンコ 淡水魚 ハゼの仲間
どぐらしか 毒々しい 味がどぎつい 味が濃すぎる
とくる 古語【解く】 解ける ほどける ②問題が解決する ③心安くなる
とくる【融ける】 **melt** 雪や氷が水になる
とぐる 古語【遂ぐ】 遂げる
どくる 古語【退かす】 退ける 場所を移す
どぐろ【罎】 とぐろ 蛇が渦巻状態になる
とげ【刺】 **spine** 先が尖った物 ②樹皮に出来る針状の突起
どけ 古語【退け】 退け 道を譲れ 避難しろ《京》
どけ どけえ どこさね どこさん【何処へ】 **where** どちらへ
…とけ …していなさい 「見とけ」
…どけ …しておきなさい 「やすうどけ」
…とけー？ …なのか 「来んとけー」
どけーいく どけいくと どけいくとな どけいくとや 何処へ行くのか
どけーいこうろ どけいころ 何処へ行こうかな
どけーいたりーろ 何処へ行ったやら
どけーいらん 所構わず どこにでも
どけいきなすか 何処へお行きになりますか
どけいたー どけいたなー 何処へ行ったのか
どげいらん 不用意に いい加減に 不注意に 構わず
どげしこ どしこ どりしこ どれだけ
どげしこでん どしこでん どれ丈でも
どけだっか【毒気高い】 毒々しい けばけばしい 味や色がどきつい

どけち しみったれ ^{いや}卑しい ②貧弱
どけでんかしこでん どけもこけも 何処かしこに
とげとげしか ことば使いや態度が突き刺すように辛辣
どげな どげん【如何】 **how** どんな どんなに どのような
どけなつと どっか 何処かに 何処にか
どげらしか 毒々しい 味や色があくどい 非常に強烈
どげんけー どげんなー どげんやー どうだい
どげんしも どうしよう《志柿》
どげんどげんしとるけー どうしてですか《佐伊津 五和》
どげんなつとなるどー どうにかなるよ《佐伊津 五和》
…とこ …どこ …しておこう 「見とこ 読んどこ」
どこいきじゃいろ どちらへ行くのだろうか
どこいらへん どころへん【何処ら辺】 何処ら辺り
とごえる とごゆる 馬鹿ふざけする 騒動する ふざけて騒ぐ
どこからじゃいろ どっからか 何処からか
どこさね どこさん 何処へ **where** どちらへ
どこさんいたっか どこへ行ったのか
どこさんでん どこっちゃ どこでん 何処へでも
どこじゃい どこじゃいろ どっか【何処か】 何処だか
とこずれ【床擦れ】 **bedsore** 褥 瘡・褥瘡 床に圧迫してできる腫瘍
どこそけー 何処かしこへ 特定できない場所へ
どこだきよりーろ 何処ら付近を来てるだろうか
とこってん ところてん【心太】《京》天草 ②練り物
とこっどこ とこっどこる【所々】 あちこち そこここ そこかしこ
とこっどこれ【所々に】 あちこちに そこここに
どこでんかしこでん どこでんかっでん 所々方々に
とこと〈一言〉 少したことば〔ひ〕の省略
とことん 最後まで 何処までも 徹底的に 全力で 完全に《京》
とこなえ【床苗】 床で育てた苗
どこなつと《京》 どこなつとん 何処なりと 何処へか
とこはる【常春】 気候温暖地
とこぶし【床節】 ^{トコブシ} 鮑に似た貝類（腹足類の巻貝）
どこまっでん どこまででん 何処までも
どこもかしこも どこもここも 至る所に
どこもんじゃいろ 何処の産物だろうか
とごゆい《牛深》 とごゆる 馬鹿ふざけして騒ぐ 騒動する
とごゆんな 騒動するな ふざけるな 暴れるな
ところがじゃっかい ところがたい 処がね 結末だが
…とこれー …処なのに …のに
どこんしじゃい どこんしじゃいろ 何処の人だろうか

どこんうまんほねじゃいろ 素性の判らない者だか
どこんもんかい どこんもんきや どこんもんけー 何処の人ですか
…とさー …とさい …とさな …とさね …なのですよ
どざえもん 溺死者 水死体 《京》
とさか【鶏冠】 鶏の頭部にある赤い突起
どさくさまぎれ 混雑に紛れて 混雑に乗じて《京》
とさげ【一下げ】 干し柿などを竿に下げる単位 [ひ] の省略
とさな【戸棚】 前面に戸があり棚付きの物入れ《京》
ドザメ 魚名 メダカ
どし 古語【同士 同志】 友達 **friend** 仲間 **companion**
どし どしな どしね どしや どうして なぜですか
どじ どじっぱら【土地】 **ground** 地面 《日ポ》
どじ 失敗 不手際 **mismanagement** ぼか へま《京》
どしあたり 同士討 相討ち 仲間同士で対立する
とじーた とでーた【届いた】
とじえんなか 古語【徒然なし】 退屈 ②寂しい **lonesome** ③心細い **helpless**
④手持無沙汰
とじえんなしえー とじえんなしやー 寂しがって 退屈して
とじえんのうして 寂しくて 退屈で 静か過ぎて
としおり としをり【年寄り】 老人 **old man**
としかさ 歳のほど 歳の多さ 年配 **age**
としぎやーもなか としげーんなか 歳甲斐もない
どしぐい どしぐい 周囲の人に触発されて思わず食べてしまう
とじくる【綴じる】 ②穀類に虫が脂で巣を作る
としくろーて としくろて 歳を重ねて 年季が入って 経験が多くて
どしこ【如何程】 どれだけ
どしこでん どっしこでん どれしこでん どれだけでも
とししでー とししでやー〈歳次第〉 年齢によっては
としじゃー としぞー としべー 歳をとっているよ 歳だよ
どしづれ どしどうし 友達同士 仲間 **companion** 連中
としとくさま【歳徳様】 福德を司る歳の神 新年を迎える神
としとりぎやーノなか としとりげーんなか 歳を重ねた甲斐が無い
としノばん【年の晩】 大晦日 十二月三十一日
としま【年増】 年配の女性
…としやが …としやがにや …ならば 「行かんとしやが」
どしょうぼね【土性骨】根性 **nature** 生まれつきの性質《京》
どしろうと 全くの素人
どしわけ【同士分け】 仲間外し
どすぐれー どすぐろか 色が黒い 黒くて汚い感じ
どすノきいたこえ 凄みのある低い声

とせまち〈一畝町〉 一畝(30坪) 一区画の田畑

とぜんなか とぜんなか 古語【徒然なし】 退屈 ②寂しい **lonesome**

③心細い **helpless** ④手持無沙汰

とぜんなせー とぜんなしゃー 寂しがって 退屈して

とぜんねー 古語【徒然なし】 寂しい **lonesome** ②退屈 ③心細い

とぜんのうして 寂しくて 退屈で 静か過ぎて

…とぞ …ぞ …なのだ 「行くとぞ」

…どだー …だろう 「来っどだー」

…とたい …だよ 「見っとたい」

どだい【土台】 **foundation** 基礎 基盤 ②元来《日ポ》

…どだい …だろうよ 「知らんどだい」

とたま〈一玉〉 うどんなどの分量 一滴〔ひ〕の省略

とたまりゃなか ひとたまりもない〔ひ〕の省略

とだゆる 古語【跡絶ゆ】 跡絶える 途中で絶える 途切れる

トタン《ポルトガル語》 **tutanaga** 亜鉛をメッキした薄い鉄板

とちめく とちる とちるる とちれる 古語【とちめく】 狼狽する 慌て騒ぐ

慌てふためく《日ポ》

どっ どり どれ 「強かたどっ」

どっから どっかる 何処から 「何処から来なしたかな」

どっからか どっかかりか どっかかるか 何処からか

とっかえひっかえ 度々変える 再三変更する

とっかかり とっつき 手掛かり し始め

どっかっじゃい どっからじゃいろ 何処からか

とつかみ〈一掴み〉 一握り〔ひ〕の省略

どっかりする どっきりする 重厚な味で満腹感がある

とづかん とどかん 届かない 達しない 行き渡らない

とつきげん〈時機嫌〉 お天気屋 斑気 **whim**

とつきとうか 10ヶ月と10日 妊娠期間

とづく 古語【届く】 **reach** 届ける 達する 行き渡る

どづく 近世語【ど突く】 殴る **strike** 懲らしめる《京》

とづくどもん 届くでしょう 達するでしょう

とっくやす とっくわやす 取り壊す(建物など)

とっくり【徳利】 酒を入れる容器

とつけむなか とつけむにゃー とつけんなか 途轍もない とんでもない

思いがけない 滅相もない

どっこいしょ 力を入れる時の掛け声 ②【六根清浄】行者の掛け声

どっこいどっこい 力量が同じ 互角 釣り合う 均衡する

とっこす 頭の腫瘍 こぶ

どっさり 大量に 沢山に

どっじゃい どっじゃいろ どっじゃろかい どれだか

…とった …していた 「見とった」
とっちーて とりちーて 取り付いて 取り掛かる 着手して
どっちさね どっちさん どっちゃん どつつあん どちらへ
どっちしょ どちらでしょう
どっちつかず どちらとも決めかねる
どっちっちゃ どっちでん どっちとめ どっちとも どちらも
どっちなつと《京》 どりなつと どんなつと どちらか
どっちみち《京》 どのみち どうせ どうしたって
どっちもどっち どちらも大差無い どちらも悪い
どっちゃん どつつあん どちらへ
どっちゃん でん どつつあん でん どちらにでも
どっちんとじゃいろ どっちんとじゃろかい どちらの物だろうか
とつつあま とつつあん《京》 ととさん 父親 **father**
とつつかまえる とつつかまゆる 捕り押える 捕まえる
とつづき とつるぎ【一続き】 続けて 一連 [ひ] の省略
とつつきにつか 親しめない 素っ気ない
とつっぱり 指を広げた長さ ②歩幅 [ひ] の省略
とつつかさす 無闇矢鱈に取る 不必要なものまで取る
とつてある 保管してある 確保してある
とつてえーた とつてゑーた 取っておいた 確保していた
とつてひつつけたごたる 態とらしい 不自然だ
どつでん どりでん どれでん どれでも どれにでも
どつでんかっでん どつでんこつでん どれも彼も
…とつとう …どつとう …しているのか 「寝とつとう」
とつとかさす とつとらす 取っていらっしゃる
とつとかでにゃ とつとかでん 取っておかないで
とつとかれん 取って置けない 保管できない
とつとく 取っておく 確保しておく《京》
とつとくと 取っておくのだ 確保しておきます
とつとけ とつとけぞ 残しておけよ 収めておけよ
とつとつ【訥々】口籠もる つかえながらゆっくり喋る
どつどつじゃいろ どつどりじゃいろ どれとどれだろうか
どつとつと とつとる 確保している 貯えている
とつとつとぞ とつとつとばな 確保しているよ
どつとつともとつとー 取っていると思っっているのか
どつどみ どつども どつどん ど奴ら
とつとらんとぞ 取っていないよ 残していないよ
どつどつじゃい どりどりじゃいろ どれとどれだか
どつどり どりどり どれとどれ
とつぱさき とつぱな【突端】 先端 **top** 岬 **cape** 最初 **first**

とつぱづく 先走りする
とつぱなるる とつぱなれる 距離が開く 間が離れる 跳び離れる
とつぱもん〈剽 軽〉 **funny** おどけ者
とつび とつぶ【一粒】〔ひ〕の省略
とつびょうしもなか【突拍子】 とんでもない
とつぺん【突辺】 とつぺんさき とつぺんちょう 天辺 ^{てっぺん} 頂上 **summit** 先端
とつぼう とつぽ 筒袖 袖口が小さい作業用和服
どでー どでや【土台】 **foundation** 基礎 基盤 元来 元々
…とてー …なのにな 「良かとてー」いいのに《鬼池》
…どでー …だろうに 「見っどでー」
とでーた とでた【届いた】
どてぐえ【土手崩れ】 崖崩れ 崩土
とてつもなか とてつものにゃー【途轍】 途方もない 法外な 意外な
とてもじゃか とてもじゃなか 到底無理なこと
ととう【徒党】 **band** 仲間
とどくる 届ける **send** 託する
とどこおる 古語【滞る】 **stagnate** 停滞する 渋滞 滞納する
とところ 一ヶ所 同じ所
ととこれー〈一箇所に〉〔ひ〕の省略 「ととこれかたまれ」全員集合
ととしか ととしゅうなる 狼狽する 慌てる とちる まごつく ②霞む
どどノつまり《京》 どどんつまり 結局は 最終的には
ととろはげ 斑点状の禿
…とな? …とね? …なのか 「行くとな」
…となろ …となろうば …なれば 「すっとなろ」
…とに …処なのに …のに 「良かとに」
とにぎり〈一握り〉 片手で握る分量 〔ひ〕の省略
…とにゃー …とは 「お前とにゃー違う」
とねずみ〈一撮み 一摘まみ〉 一掴み ^{つかみ} 〔ひ〕の省略
…との …とん …のが …物が 「良かとのある」
どのみち どうせ どうしたって
どは 土止め 土手 **bank** 土の堤防《京》
…とばい …とばえ …とばいた …なのよ …だよ
…とはしながら …であるが故に 当然…であるから
とばしり《京》とばしゆる 古語【逆り】 ^{ほとぼし} 飛沫 ②巻き添え
とばり【帳】 垂れ布 ^{きぬ} カーテン **curtain**
とばんじゅう〈一晚中〉 〔ひ〕の省略
とび とびわら〈鳶藁〉 乾燥させる為に積んだ稲藁の束
とびあがり 古語【跳び上がり】 突飛でそそっかしい人《京》
トビシャゴ トミシャゴ ^{ホウセンカ} 鳳仙花 ^{ツマクレンナイ} 爪 紅 ツリフネソウ科の一年草
とびじよがらす 旋毛 《大浦》

とびとび 跳びながら 飛び飛び 間を抜かして
…とびゃー …とべー …なのよ 「せんとびゃー」
とびゃーっさるく とべーっさるく 走り廻る 飛ばし廻る
どぶ どぶざけ〈溝酒〉 どぶろく 濁り酒 《京》
とぶくら とぼくら【戸袋】 雨戸収納箇所
とぶり〈一振り〉 振分荷物の一荷 [ひ]の省略
どべ どべこす どんけつ どんこす どんべ 最終尾
どべくる どべる【滑る】 slip 滑って倒れる
どべどべ 滑らかに

トベラ 匂いの強い蔓 ②女性性器の異臭 **stink**

とほうもなか【途方】 手段が無い 方法が無い

とぼくる とぼける【惚ける】 素知らぬ振りする《京》

どぼくるる どぼくれる 先端が潰れる 鈍角になる

どぼくれ どぼれ(鉛筆など)先端が潰れた物

とぼくんな 惚けるな ②知らぬ振りするな 白化くれるな

とぼす 古語【点す】 点す 点灯する 灯を点す《京》

とぼとぼ 力なく歩く

とぼる 古語【点る】 **burn** 灯が点る

…どま《京》 どみゃ …共は 位は 程は 「今夜どま」

とまいどら【唐米俵】 玄米を入れる麻袋

どまぐるる 近世語【どまぐれる】 戸惑う 慌てる まごつく ②捨鉢 放蕩

どまぐれ 自棄を起こす 放蕩 捨鉢 ②放蕩人

とまっとる 止まっている 動かない

とませもせ とめもせ【泊め申せ】 お泊まり頂け

とまわり〈一回り〉 一巡 **a round** 一千支 [ひ]の省略

とみ【唐箕】 穀物選別機 (農具)

…どみ ども …共 等 と一緒に 「子ども」

とみぐり【唐箕繰り】 唐箕で穀物を選別する

トミシャゴ ツリフネソウ科 ホウセンカ

とむりゃー とむれー 古語【弔ひ】 死者の魂を慰める

とむる 古語【止む】 止める やめる 中止する

…とめ …共に …と同時に 全部 「一掃とめ遣りもせ」

…どめ …共に …等に 「子ども」子どもたちに

とめどものう 際限なく 限りなく

とも【艫】 **stern** 船尾 船の後方

どもー【老耄】 老耄性痴呆症 (認知症) [ろ]の転音

ともあれ ともかく 兎に角 それはそれで

…どもーて …ともて …どもて …とあって 「雨ともて」

ともーり ともり【一盛り】 一回分の荷物運搬 [ひ]の省略

ともぎれ【共布】 同一の布 同じ生地

ともぐい 同じ種族同士で食い合う 利益を奪い合う
どもこも どんこん 古語【どもかうも】 どうにもこうにも
どもこもじゃか どんこんじゃか 到底不可能 ととても無理
どもこもならん どんこんならん どうにもならない
ともじ 古語【葱】 ※(一文字) 葱 小葱 分葱
…ともとった …どもとった …と思っていた
ともも【太股】 大腿部 [ふ] の省略
どもる【吃る】 ことばが滞る 吃語
…どもん? …だろう …でしょう 「行くどもん」
とや 古語【鳥屋 埜】 鳥小屋 鶏小屋
…とや? …なのか 「良かとや」
どやさるる どやされる 叱られる 殴られる
どやす 叱りつける 懲らしめる 打つ 叩く《京》
どやつか【ど奴か】 [誰か どの人か] の卑語
どやらん 不用意に いい加減に
どやらんこつ 無責任でいい加減なこと
とやりげ 度々 **often** 始中終 **always** 始終 常に 何時も
どゆうこつか どゆこつか どうゆうことか
どゆうふう どゆふう どんな調子 どんな様子 具合
…とよ …なのよ 「良かとよ」
どようする【土用】 立秋の前十八日間 (夏の土用) ②猫の発情
どようなみ【土用波】 土用(七月二十日頃)の大波
どようぼし どよぼし《京》 古語【土用干し】 虫干し
どよめく 古語【動めく】 大勢がざわざわ騒ぐ ざざめく
どら どりゃ どうれ どれ そら それ
どら どらむすこ 道楽者(息子) 放蕩者《京》
とらいた とらった とりやがった 取った
とらした とんなした とんなはった お取りになった
…とらす …どらす …していらっしゃる
とらまえる《京》 とらまゆる【捕らえる 捉える】
とらるる 盗られる 盗まれる
とらんか とらんかな 取りませんか
どり 鶏卵のからざ 鳥の肺臓
…どり 技量 作法 **etiquete** 使い様 「箸どりン悪か」
どり だる どれ【ど奴】 どの品物
とりあえず 古語【取り敢へず】 **at once** まず 当面 差し当たり
とりあげば一さん とりやげばさん【産婆】 助産婦《京》
どりー? どりかい どれだい どれですか 誰ですか
とりく一だ とりこ一だ 取り込んだ ②味方にした
とりこみ 収獲 取り入れ ②味方にする ③不意な出来《京》

とりこむ 古語【取り込む】 収穫する ②味方にする《京》
どりさね どりさん どのさね どのさん どの方へ
どりじゃいろ どりじゃろかい どれだろうか
どりしょ? どれでしょう どれだか判りますか
とりそくなう 取り損なう
とりたて 古語【取り立て】 借金取り ②登用 **appointment** ^{ぼってき} 拔擢
とりちて 取り付いて 取り掛かる 着手して ②怨霊が乗り移って
とりつくろうて 古語【取り繕う】 体裁を作って
どりでん どりてん どれーでん どれでん どれにでも
どりとしようはなか どれを取るか決めようがない
どりなー どりね どりやー どの品物か ②誰だい
どりなっせ とんなっせ お取りください ②召し上がれ
どりなつと どれなつと どんなつと どれなりとも
どりばー どりばな どりばや どれを どれだい
とりまえ【取り前】 取り分 取得権 分け前
とりめ 収穫量目 収穫量
どりもかりも どりもこりも どれでも ②誰も彼も
とりもつ 古語【執り持つ】 世話する ②仲介する
どりゃ どりゃー さて それ どれ ほれ
とりゅーきゃー とりゅーけー とりゅうに 取れる筈がない
とりやる【取り遣る】 取り片付ける 持ち運ぶ
…とる …どる …している 「勝つとる」《京》
どるー? どれ? どれな? どれだい どの品物か ②誰だい
どるしこ どれしこ どれだけ
とるる【取れる】 剥がれ落ちる ②解釈できる
とれー とろか 古語【鈍し】 鈍い **slow** 鈍感 ^{ぐどん} 愚鈍 **foolish**
どれーしゅうかい どれーするかい どれにしようか
どれでんこれでん どれもこれも
とろうきゃー とろうけー とろうに 取るはずがない
どろかぶる 泥を被る ②不利を承知で役目を負う
どろくさか【泥臭い】 田舎臭い 野暮ったい センスがない
どろくさんみゃー 〈泥三昧〉 泥遊び ②泥塗れ 泥汚れ
どろくれ 古語【土塊^{くれ}】 土の塊
どろぐわっちょう 泥塗れ 泥汚れ ②野良仕事
どろしごつ どろしごと 〈泥仕事〉 土を扱う仕事 ②農作業
どろだらけ 泥塗れになる 泥がついて汚れる
どろで どろでー 〈泥手〉 泥で汚れた手
どろどろ 溶けて粘りけがある
どろまくりん どろまくれ【泥塗れ^{まみ}】
とろろまめ 〈陸蓮根〉 アオイ科オクラ **Okra**

とを とんを 古語【十】^{とを}ten

どわいか どわっか どわっちか どわっちゆかい

どわーる どわるか どわんな いいではないか 構わない

どわいらんこつ 無責任でいい加減なこと

どわすれ 瞬時に思い出せないこと《京》

とわたり 古語【門渡り】 狭い所を渡る 山の脊梁

②会陰部と肛門の間「蟻の門渡り」

…どわなん …でしょうよ 「来らっどわなん」

とわん 届かない 到達しない

…とん …ぞ …のに …だが 「遅るっとん」

…とん …の …が …のが …なのが「良かとんある」

…とん …共 ともあれ 兎も角 「是非とん」

…どん …どの …どれの …どこの 「どん色」

…どん …でも 「酒どん飲むか」

…どん …共 …ども …たち 「わっどん」

どんがめ 亀 **tortoise** 屑亀 石亀

とんがらかす《京》 とんぎる 先端を削る **shave** 尖らせる

とんがる【尖る】^{とが}**get sharp** 先端が細くなる

ドンキュウ【蛙】 《佐伊津》

ドンク【蛙】 土蛙（両生類動物）《ボ》

どんくりゃ どんくれー どんくんにゃ どれ位

どんくろ ドンコ カワアナゴ科の淡水魚 ②怠け者

どんけつ どんこす どんこべ どんじり どんべ 最終走者 最後

どんこじゃい どんこじゃいろ どの子だろうか

ドンゴロス 《印》**dungarees** 麻袋 麻製の粗布 **dungaree** 布

どんこん 古語【どうもかうも】 如何にも どうにも とても

どんざ 古い布を重ね縫いした長着 ぼろ着物 仕事着《京》

どんしー どんわれ どの衆（人達）ですか どの人ですか

どんじー【土槌】 どんじゅ 土塊を打ち砕く木槌（農具）

とんじゃく【頓着】**care** 関心 **interest** 気遣い **worry**

とんじゃくせん とんじゃくなか 相手にしない

とんじゃくうちてんおらん …なか 無頓着 相手にしない 相手にする人がいしない

とんじゃくちんなか 無頓着 相手にしない《牛深》

とんじゃくわなか …ンなか 無頓着 等閑 ^{なおざり}**neglect** ^{ゆるが} 忽せ

とんずら 逃げる 逃避する **escape**

とんずまり 最終局面 最後の手段 ②最後尾

とんずわる 地べたに尻を付けて座る

どんぞこ 一番底 **bottom** 最低 **lowest** 最悪 **worst**《京》

とんだ 近世語【とんだ】 意外な 案外に 思わぬ

とんだ【土手】**bank** 堤防 高く築いた土手

どんたく 《オランダ語》 **zondag** 休日 **holiday** 日曜 **sunday**

どんだけ 如何程 どれだけ 《京》

どんちゃんさわぎ 鐘太鼓など鳴り物入りの酒宴 《京》

とんちんかん【頓珍漢】 辻褄が合わない ちぐはぐ 意味不明瞭 《京》

②間抜け 鍛冶屋の相槌の音

どんづまり 結局は 最終的には ②終点 **terminus**

とんでもなか 途方もない 考えられない

とんと 近世語【とんと】 全然 全く まるで ②さっぱり

どんどや どんどやき 鬼火焼き 左義長さぎちやう

とんとん〔擬態音〕 損得無し ②五角 《京》

どんどん〔擬態音〕 ずんずん 見る間に 「どんどん増える」

とんとんぴょうし 順調 順風満帆まんぼん 《京》

…とんなー …とんねー …とんやー …なのですか 「綺麗かとんな」

どんなー どれか ②誰か 「好きんだどんなー」

とんにがす【捕り逃がす】 捕え損ねる

とんぼもん とんま〈頓馬〉 間抜け のろま 馬鹿

どんばら 太鼓腹 ②妊婦 《京》

どんぴしゃ どんぴしゃり 丁度良い 打って付け 的中 **hit**

どんびやくしょう 愚鈍な百姓 貧農 ②專業農家

とんぴんかん 調子者 粗忽 ひょうきん者 跳ねっ返り 軽率 **careless**

とんぷく〈頓服〉 薬効の早い薬 直ぐ効く薬

とんべら 先端 **head** 頂上 **summit** 天辺 **top**

とんぼか 鋭い **sharp** 尖っている

とんま【頓馬】 のろま 間抜け 馬鹿 抜けている人

どんまいどんまい 構わない やれやれ 良い調子

とんまくる 跳び回る

とんまめ【唐ソ豆】 ソラマメ 空豆 ソラマメ 蚕豆 マメ科の一年草

どんより〔擬態音〕 空が薄暗く曇っている

…どんみろ …でもみろ …どもみろ 「来てどんみろ」